保健師最前線

住民と近い仕事がしたかった

与謝野町　柴山　真美さん

昨年６月から与謝野町保健課で働いている柴山さん。三重の学校を卒業し、東京都の病院で１年間助産師をした後、地元の与謝野町に戻ってきた。

「やっぱり地元に帰りたかったんですよ。住民がどういう暮らしをしているのか興味があり、住民と近い仕事がしたかったんです。」

今は仕事が楽しく、すぐに反応が返ってくるのがうれしい。悪い反応、良い反応はあるが、地元住民のすぐそばで活動できている。

今は母子と成老人を担当し、予防接種や育児相談、運動教室をしている。運動教室では、素案からメンバーに入って企画し週１回、１０回シリーズでエアロビを開催している。体重やお腹周りを測定し、最終的には運動習慣を身につけてもらえればと思っている。

育児相談では１人の保健師で１日３～４人の相談にのっている。

「まだ、出産や育児経験のない私がアドバイスしていいのだろうか？と思っています。」

お母さんも育児のことを聞いて欲しいだけの相談もあり、話を聞くことで、お母さんの顔から不安な表情が消えていくのがみられるとうれしく思う。保健師が言った事を思い出してくれて、少しでも実行して頂けたら、役にたったと保健師としてのやりがいを感じる。

与謝野町では８人の保健師が保健課にかたまっており、保健師どうし相談しやすい環境になっている。先輩に相談しながらも、柴山さんの今の目標は母子、成老人どちらも任されても大丈夫になることだ。